

世 界の日系レガシーを未来の礎に! ハワイ元年者150周年を祝って 第59回海外日系人大会

15カ国より約300名が参加

日本人がはじめて海外へ集団移住した1868年(明治元年)から150年の節目となる今年、当協会はその最初の移住先であるハワイで、6月6日、第59回海外日系人大会を開催した。現地の日系社会では今年、年間を通じてその最初の移住集団である「元年者」150周年を祝うさまざまなイベントが実施されているが、6月7日にはそのメインとなる記念式典とシンポジウムが開催された。日系人大会参加者は6日・7日両日の公式プログラムに参加。7日夕刻に開催された在ホノルル総領事館主催のレセプションにも招待された。8日にはホノルル市内の日系人の足跡を巡るオプションツアーを実施。9日にはハワイ島の日系社会と交流するコースも実施した。

秋篠宮同妃両殿下をお迎えして開会



来賓挨拶を行なうデービッド・イゲ・ハワイ州知事

6日、第59回海外日系人大会は、「オリ」と呼ばれるハワイ先住民の祈りの儀式で幕を開けた。今大会には、15カ国より約300名が参加した。田中克之当協会理事長は、50年前に元年者100周年を祝ってハワイで開催した大会の参加国はわずか5カ国であったことに触れ、各国からハワイに集まった参加者をはじめ、関係各方面へ御礼の言葉を述べた。

秋篠宮殿下は開会式で「みなさまが、たゆまぬ努力を積み重ねられ、多方面で活躍し、地域社会から多大な信頼を得ていることは喜ばしく、心強いものを感じております」「世界15カ国から参加された日系社会の皆様が、今日まで連綿と続いてきた日系社会と日系人の150年の歴史を振り返り、その良き伝統と文化を次の世代に引き継ぎ、また、将来の展望について世代を超えて議論することは大変意義深いものと考えます」とおことばを述べられた。秋篠宮同妃両殿下は、日本人墓地や日系の高齢者福祉施設、ハワイ日本文化センター、えひめ丸慰霊碑等もご訪問された。

開会式では、来賓として佐藤正久外務副大臣、デービッド・イゲ・ハワイ州知事、シェリー・タムラ・ハワイ日系人連合協会会長が挨拶したほか、伊藤康一在ホノルル総領事、ロイ・アメミヤ・ホノルル市長代理、ジョージ・アリヨシ元ハワイ州知事、アイリーン・ヒラノ・イノウエ日米カウンシル会長、ク

リスティーン・クボタ 元年者150周年 実行委員会共同議長、三輪久雄共同議長、フジオ・マツダ元ハワイ大学総長などが参列した。



海外日系人大会、元年者150周年記念行事出席を主目的にハワイを公式訪問された秋篠宮同妃両殿下

総合同司会を務めたハワイ在住のともたいく子当協会理事が、今大会の参加国を順に紹介。スクリーンに国旗が映し出されると、各国の参加者は立ち上がり手を振ったり国旗を掲げたりと参加を盛大にアピールしていた。

その後、日本を代表する政治学者・歴史学者でもある北岡伸一(独)国際協力機構理事長が元年者の歴史的意義等について記念講演を行ない、「今後は、日系社会との絆を一層深めることはもとより、非日系の方々も含めた親日・知日派を増やしていきたい」と話した。



参加国紹介でアピールするカナダからの参加者たち

基調講演(要旨)

「日本の近代化と移住—ヒトのネットワークをつくる」

堀坂浩太郎 上智大学名誉教授／海外日系人協会常務理事



堀坂上智大学名誉教授

元年者が1868年、ハワイに向け横浜港を出発したのは、徳川幕府から新政府に江戸城が引き渡された「無血開城」からわずか2週間後のこと。正に激動の日本を後にし国外に向かった元年者は、日本人の海外移住の魁(さきがけ)となった。

激動の中で「選択としての移住」

日本はまだまだ貧しかったが、一方で、開国の息吹が満ちつつあった。移住者を引き付ける要因には、労働の機会だけでなく、社会の形成や国家の形成、大げさに言えば文化の形成に「参加する」機会があったと言える。

ブラジル移民70周年を記念して1978年にサンパウロで行われたシンポジウムで、日本を代表する文化人類学者のひとり、故・梅棹忠夫先生は、日本人移住者に敬意を表して「われら新世界に参加す」と題する基調講演をされた。こうした気概が移住という行動には連綿として流れ、日系世代の形成に結びついてきたと言える。その多くは「選択としての移住」を敢行された人々であったと、敬意を込めて述べたい。

日本を支えた日系の存在

第二次世界大戦後、日本への支援の筆頭に挙げられるのがLARA 物資である。1946年から52年までの6年間に、食料や衣料、医薬品、学用品など、実に多くの支援物資が日本に送られた。その総額のおよそ20%が日系人による支援だった。海外日系人大会は、救援物資を送ってくれた海外日系社会に感謝して、わが国の国会議員の呼びかけで開催されたのが始まりである。日本が国連加盟を果たし、国際社会に本格復帰した翌年、1957年のことだった。

戦後復興だけではない。1995年の阪神・淡路大震災、2011年の東日本大震災・福島原発事故、2014年の広島土砂災害、2015年の熊本大地震では心温まる支援を国内外の日系社会からいただいた。

1990年代から始まった中南米日系人の「デカセギ現象」もまた、「日本を支える」との観点から見直すことができる。「デカセギ」のピークは2007年で、その数は30万人を超えたが、リーマンショックで急減し、今再び増え始めている。こうした変化の中で、在日の日系は、もはや「デカセギ」の段階ではなくなったとの見方もある。

ヒトだけでない—

モノ・ノウハウ・文化・スポーツの分厚い相互交流

移住はヒトの動きだけではない。ヒトが動くことによって、生活様式から技術、文芸、文化、スポーツとあらゆるものがついて回る。移住先から日本に持ち込まれたものも少なくない。

支援・協力から連携へ

1960年代、日本が高度成長期を迎えると移住希望者は減少に転じる。1973年2月には、最後の移民船「にっぽん丸」が横浜港を後にした。集団移住の終わりと共に、日本の日系施策から送り出しの側面は消え、協力へと比重が移された。

1955年に首相の諮問機関として設置された海外移住審議会の最後の答申が出されたのは、2000年12月のこと。それから17年経った昨年3月、当時の岸田文雄外務大臣の下に、日系人施策の方向性を検討する有識者懇談会が設けられた。結論を一言でいえば、中南米日系社会に対する日本のスタンスを、これまでの「支援・協力」から一歩進めて「連携」に比重を移す段階にきているということ。それぞれの居住国において数の上ではマイノリティであっても、さまざまな分野で存在感を増してきた日系人・日系社会との関係構築を一層進めるためには、双方の立場を積極的に活かすことのできるイコール・パートナーの意識を持つことが必要。

世代を重ね、世界に広がる日系

ブラジルでは、コロニアと呼ばれる日系社会の概念が、世界に広がり、さらに周辺のラテンアメリカ諸国や北米の日系社会との関係を築ける下地ができあがってきた。パンアメリカン日系人大会や、通称「日系オリンピック」と言われる日系国際スポーツ親善大会、ワールドワイド・ウチナンチュ・ビジネス・アソシエーションはその典型である。移住者を送り出した日本の地方自治体との間では、沖縄県の「世界のうちなーんちゅ大会」や福岡、山口、鹿児島などで実施される海外県人会の世界大会などがある。そして在日日系社会が生まれたことで、中南米と日本の日系ネットワークは密度の濃いものとなりつつある。日本での経験をベースに、東アジアや欧米に飛び出していく在日日系の若い世代の姿もある。国際機関で働く日系の数も少なくない。世代を重ねるにつれ、世界に広がる日系の姿を私たちは目にし始めている。

グローバル化150年を経て日本と日系社会は？

明治維新から150年、元年者と共にグローバル化が始まった日本の今日的な課題のひとつは、多様なバックグラウンドを持つ人々の知恵をいかにして取り入れるかにある。世界が、ヒト、モノ、金融、情報通信に加え、人口知能(AI)を駆使したデータ集積により、グローバル化がさらに加速しそうな今日、日本は、「外へ」も「内にも」、グローバル化をさらに進めなければならない局面に立たされている。

その際、異なる文化背景をもちながらも融合の経験を積み重ねてきた日系の方々、日本にとり、さまざまな分野や局面で、「架け橋」となる頼もしい存在である。

「150年の歩みと提言」

基調講演の後には、「150年の歩みと提言」と題して4名の参加者による発表が行なわれた。発表者とその内容は以下の通り。

・フランク・シミズ・グアム日系人会最高顧問

ハワイと同じく日本人移住150年を迎えたグアム日系社会の歴史

・野内セサル良郎日本マチュピチュ協会会長

ペルー出身の日系三世である自らの在日体験と、初代マチュピチュ村村長を務めた祖父が残した功績を後世に伝える活動

・フェルナンド・スエナガ・パンアメリカン日系人協会会長

昨年11月、リマで開催のパン・アメリカン日系人大会で議論された「国際日系デー」の制定について

・吉田ジオゴえいじ日本財団日系スカラシップ奨学生
ブラジルへ渡った祖父の歴史と、若い世代にできること



吉田ジオゴえいじさんの発表



左からモデレーターの慶應義塾大学柳田名誉教授、コメンテーターの津田塾大学飯野名誉教授、パネリストのハワイ日系文化センター林野所長

パネルディスカッション

「日系人・日系社会のレガシーとは」

パート1「日系資料館の連携に向けて」

パート1では、柳田利夫慶應義塾大学名誉教授をモデレーターに、各国の日系資料館代表者らがそれぞれの資料館の現状と課題等について発表した。コメンテーターとして参加した飯野正子津田塾大学元学長・名誉教授は、各パネリストの発表を聞いて「各地域のレガシーの特色、果たしてきた役割や将来像を伺い、みなさんの熱意が伝わってきてワクワクした。各地域のレガシーの違いがはっきりと博物館・資料館の中に生きている」「違い＝多様性を知ると同時に、共通性をはっきりと認識することが、国を変え、コミュニティを変えていく。それと同時に世界の将来を変えていくと思う」と話した。

ハワイ日本文化センター 所長 林野キャロル

1987年に、文化的遺産、伝統、歴史や一世から受け継いだ価値観を保存し伝えていくための多文化センターとして設立。さまざまな民族が共に暮らし、その文化や価値観を共有してきたのがハワイ。ハワイの多様性は移民の存在によってもたらされている。

カナダ日系文化センター・博物館 理事長 五明明子

カナダには第二次大戦時の日系人に対する強制収容・財産の没収という負の歴史がある。戦後のリドレス運動の結果、1988年にカナダ政府による謝罪、補償金交付の実施が行われ、その資金で土地を購入。約3エーカーの土地に日系文化センター・博物館、シニア向けの集合住宅、ケア付き住宅(日系ホーム)と日系ガーデンがあり、これらを一箇所に集めた複合施設を「日系プレイス」と呼んでいる。

JICA横浜 海外移住資料館 館長 朝熊由美子

企画展示、巡回展、海外の日系資料館とのWEB上での相互リンクなど行なっている。次の150年に向けた協力を、日系移住地にある小規模な資料館も含めたすべての資料館の参加を歓迎し、新たな資料館の設立も応援したい。日系の歴史を次世代や非日系の方々伝えるために、共に活動したい。

ロス全米日系人博物館 館長 アン・バロウズ

1992年に設立。第二次世界大戦時、強制収容所に向かうバ

スに乗るために日系人が集められた場所に建つ。日系アメリカ人社会、文化的多様性に対する理解を促進し、歴史を忘れないこと、偏見を取り除くことをミッションとしている。

日本人メキシコ移住あかね記念館 春日俊郎カルロス

2016年10月に仮オープンした新しい資料館。移民会社を通して移住してきた約10,000人の名簿もあり、三、四世のルーツ探しに協力している。一世の足跡を残すことを主にしながら、日系メキシコ人の明日の活躍のために、隣接する日墨協会と共に協力していきたい。

ペルー日本人移住史料館 館長 伊芸ホルヘ

JICA横浜 海外移住資料館がWEB上に開設している「移住資料ネットワーク化プロジェクト」に参加している。この機会に、日系博物館同士が情報交換し経験を共有するため、JICA横浜が主導して各国の日系資料館のネットワークづくりを進めるのはどうか。

ブラジル日本移民史料館 運営副委員長 山下リジア

1978年に移民70周年を記念して設立。移民110周年に当たる今年は、近代化プロジェクトとして建物と展示の改修に取り組んでいる。第二次大戦後、それまでは帰国の夢を描いていた移民が勝ち組・負け組に分裂し、徐々にブラジルで暮らす決意をせざるを得なくなり、ブラジル社会に統合していったプロセスを展示する。

パート2「日系人の社会活動と課題への取組み」

パート2では、多角的な観点から、日系レガシーについて考えた。日本人のハワイへのビジネス投資についてスティーブ・ソンプレロ世界ウチナンチュ・ビジネス・ネットワーク社長、ブラジルにおける日系病院と福祉施設の役割について与儀昭雄サンパウロ日伯援護協会理事会会長、フィリピンの日系人と日本語教育の現状についてイネス山之内P. マリヤリ・フィリピン日系人会連合会会長、欧州・オランダにおける新日系人の現状と課題について藤木きよ在蘭邦人相談窓口代表、日本国内の日系ラテンコミュニティの現状についてアルベルト松本イデア・ネットワーク代表、日系人としての自らの生い立ちや若者の目から見る日系レガシーについて日本財団日系スカラーシップ奨学生の幸坂歩さんがそれぞれ発表した後、モデレーターの中井氏が各パネリストに質問を投げかけた。最後に、各パネリストが「私にとっての日系レガシー」を一言ずつボードに書いて発表した。

中井氏は、「日系レガシーは、100人いれば100通りあるのかもしれない。



各パネリストが書いた「私にとっての日系レガシー」とは

い。今日は、それぞれの日系レガシーを日系に限らず世界の人々に伝える、そんなことを考えるよい機会になったことと思う」と締め括った。

ハワイ日系社会によるエンターテイメント



ケニー・エンドウ氏による迫力の和太鼓パフォーマンス

コーヒープレイクを挟んで行なわれたハワイ日系社会によるエンターテイメントでは、世界的に活躍する和太鼓アーティスト、ケニー・エンドウ氏による大迫力の和太鼓と獅子舞のパフォーマンスに続いて、Karen Keawehawai'i, Hula Halau Olanaによるフラが披露された。



子どもたちによるフラ。ハワイの伝統文化は若い世代にも受け継がれている

大会宣言の発表

パネルディスカッションの内容を受けて取りまとめられた大会宣言案を、参加者を代表して、ブラジルから参加した二宮正人サンパウロ大学教授が読み上げた。6項目からなる大会宣言は、会場からの拍手をもって原案通り採択された。(大会宣言はP5に全文掲載)



ホノルル視察ツアーに参加したみなさん



マキキ墓地で献花する参加者たち



ハワイ島パホア日系人協会のみなさんと

歓迎交流会

午後7時からは、再び秋篠宮同妃両殿下をお迎えして歓迎交流会を実施。ディーン・アサヒナ・ハワイ日系人連合協会元会長による乾杯の挨拶の後、両殿下は参加者のテーブルを回られ、参加者と親しくお話された。紀子さまに声をかけていただいたというハワイから参加した一世の女性が感激して涙を流す一幕もあり、「冥土の土産になった。いつ死んでも悔いはないけれど、今回みなさんと交流して、東京オリンピックまで元気でがんばることにした」と笑顔で話していた。



主催者挨拶を述べる田中克之当協会理事長

ハワイ日系社会の足跡を辿るオプションツアー

6日の大会、現地元年者実行委員会の主催による7日の式典・シンポジウムと在ホノルル総領事主催のレセプションを終えた翌8日は、希望者を対象にホノルル市内の視察ツアーを実施し、約50名が参加した。その後希望者4名はハワイ島へと移動し、9日にヒロ市内の見学ツアーを行なった。9日のハワイ島視察をもって、第59回海外日系人大会はそのすべてのスケジュールを終えた。

＝第59回海外日系人大会 大会宣言＝

世界各地の日系レガシーを共有し、日系の連携を深め広げます

ホノルル、2018(平成30)年6月6日

私たち、第59回海外日系人大会(2018年6月6日開催)に世界各地からハワイに参集した日系人は、『世界の日系レガシーを未来の礎に一ハワイ元年者150年を祝って』を総合テーマに討議し、以下の6項目からなる決議を本大会の成果として宣言いたします。

1.【日系レガシー】

正直、勤勉、協調、感謝の心(おかげさまで)——私たち海外日系人は、このような価値観や生き方を祖父母や両親から受け継いできました。世界に広がる日系人は農業から、教育、医療、社会福祉、さらにはビジネスネットワークに至る幅広い分野で地域社会に貢献してきました。継承してきた日本文化が居住国の生活や文化にインパクトを与えていることも確認しました。私たちは日系レガシーを誇りとし、次の日系世代や居住国の人びとに伝え続けます。

2.【日系資料館】

世界各地にある日系資料館は、それぞれの国特有の日系レガシーを保存し地域に伝える活動をしています。私たちは、各地のレガシーを世界の日系人が共有し、さらなる発信強化のため、資料館同士の情報交換・連携を促進します。そのために日系資料館連絡協議会の設立を目指します。

3.【グローバル化と日系人】

居住国の言語や文化を身につけ、多文化が共生する社会で生きてきた日系人は、日本のグローバル化に貢献できる人材の宝庫です。日本企業のグローバルなビジネス展開や、日本の官民による国際協力において、日系人の総合的な能力を評価し、積極的に活かすことを望みます。それは日本と接点を持たない日系人が日本への関心を呼び覚ますことにも繋がります。

4.【若い世代のアイデンティティ形成】

日系人としてのアイデンティティを持って育った若い世代は、母国と日本の文化の相違点と共通点を認識したうえで、日本の価値観や文化を尊重してきました。日本語教育はこれらの要素を伝え続ける上でも大切です。日本政府が日本国外においても日本語教育により一層積極的に取り組むよう求めます。若い世代は日本で学んだり働くことで自らのルーツを理解する機会を得たいと願っています。そのために日系四世以降の世代にも三世までの世代と同様に、日本の在留資格について特別の配慮を与えることを求めます。また日本人のアイデンティティを保ちながら世界で活躍できる環境を整える視点からも重国籍の容認は重要です。

5.【在日日系社会】

中南米からのデカセギ現象は、日本の経済成長を下支えする過程で、在日日系社会が形成され、二世世代が社会人となる段階にきています。日本の移住政策によって海外に出た移住者の子孫の日本社会での活躍を受け入れ・応援するかどうかは、日本が多文化共生の時代に対応する上で試金石のひとつとなります。在日日系社会への日本社会および政府の温かい理解と支援を望みます。

6.【国際日系デー】

日本人による海外移住の先駆である元年者が150年前、ハワイに上陸した6月20日は、近代日本において日本人が初めて世界に雄飛した記念すべき日です。日系アイデンティティを共有する私たちは、第一世代の努力に感謝し、世界に広がった日系レガシーを礎に、世界の日系間の連携を促進し国際社会への一層の貢献を果たすため、6月20日を「国際日系デー」と宣言します。

最後に、私たちを温かく迎え入れ、大会成功のため多大の協力と支援を惜しまれなかったハワイの日系社会および関係者の皆様にご心からの感謝の気持ちを表します。

Health and Life Insurance for foreigners in Japan

短期滞在・日本在住の外国人向け医療・生命保険

✿ VIVA MED-S (Life and Health coverage)
医療保険(100%保障)+生命保険

✿ VIVA MED-30
医療保険(30%保障)+生命保険

✿ 3ヶ月以内の短期滞在者向けの保険

✿ 外国人留学生向け保険

✿ 外国人技能実習生向け保険

For more information, call:

TOLL FREE: **0120-656-684**

TEL: **046-265-6685**

Visit **www.vivavida.net**


VIVA VIDA®
Medical Life

少額短期保険会社
(株)ビバビダメディカルライフ
VIVAVIDA MEDICAL LIFE CO., LTD
関東財務局長(少額短期保険)第51号



平成30年7月豪雨災害緊急募金!

西日本を中心に、7月3日から降り続いた記録的豪雨により大きな被害が出ていることを受け、海外日系人協会では、被災した方々のための募金を受け付ける専用の口座を開設した。専用口座は以下の通り。

【振込先口座】

銀行名:三井住友銀行

支店名:横浜中央支店

口座種別:普通

口座番号:0114898

口座名義:ザイカガインカージンキョウカイ

銀行振込の他、当協会WEBサイトからクレジットカードによる決済も可能で、一口1,000円より受付ている。(「海外日系人協会 豪雨募金」で検索)

集まった募金は、当協会から被災県に届ける。

日系人対象・奨学金制度のご案内

当協会では日系人を対象とした2つの奨学金制度の応募受付中。ひとつは「日本財団日系スカラーシップ・夢の実現プロジェクト」。6月1日から7月31日まで当協会では応募を受け付けている。日系社会の発展に貢献するための具体的な計画や夢を持つ若い日系人に対し、日本留学の機会を与えるための奨学金プログラムで、これまでに15期115人が日本国内の大学院、大学、専門学校等での留学を果たしている。対象国は主に中南米及びインドネシア・フィリピン。対象国出身で、日本在住の日系人も応募ができる。最長5年間の留学期間が認められており、目標が明確であれば、入学が確定していない場合でも応募することが可能。

もうひとつは「JICA・日系社会リーダー育成事業」で、日本の大学院に留学を希望する中南米地域の日系人に対し、JICAが滞在費、学費等の手当を支給する制度。これまでに約180名以上の留学生が本制度で支援を受けている。日本に在住している日系人も応募可能。応募期間は7月2日～9月25日で、当協会では日本からの応募を受け付けている。

両制度の応募詳細は当協会ホームページ「日本で学ぶ」にて。

日系社会 Topics

ブラジルと日本の懸け橋育成交流プロジェクト

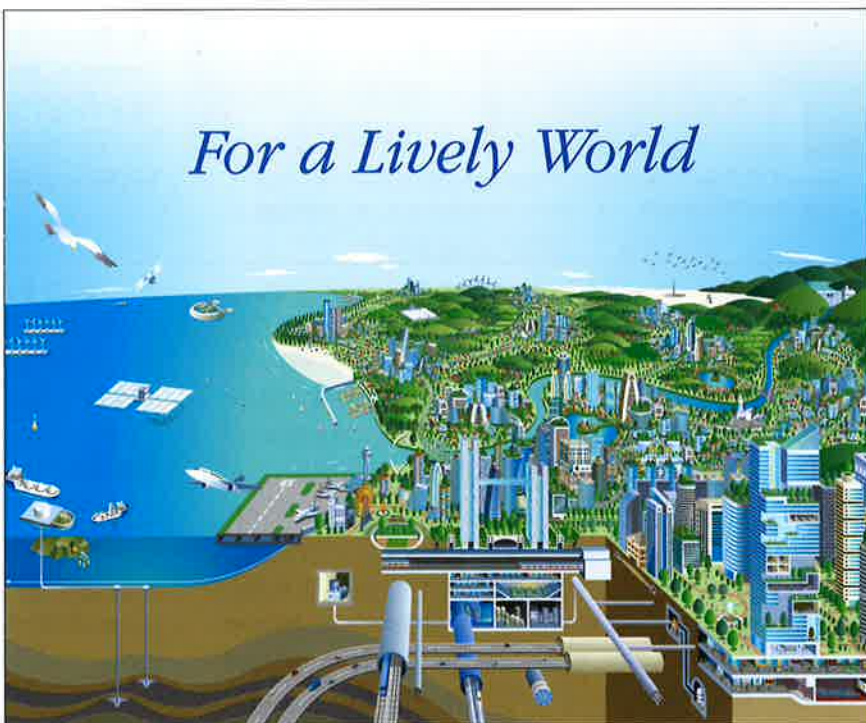
ブラジルの次世代を担う若手日系人16名が、ブラジルと日本の懸け橋育成交流プロジェクト(ブラジル移住者里帰り訪日使節団)団員としてハワイで開催された第59回海外日系人大会に参加した。大会参加後は6月16日まで日本に滞在し、視察や講義を通じて日本社会を体験した。これは、「明治150周年」「ブラジル日本移民110周年」を記念して当協会がサンパウロ新聞、NPOチャレンジ・ブラジルと共に主催したもので、竹内運輸工業(竹

内政司社長)からの特別協賛を得て実現した。

団長の西村リカルドさん(ブラジル日本文化福祉協会副会長)は、「ハワイで日系人大会に参加したことは、自分たちの日系レガシーについて改めて考えるきっかけとなった。帰国後は、ブラジルの日系レガシーを引き継いでいくために何ができるかを考えていきたい」と話した。



JICA横浜 海外移住資料館を視察した団員たち。当協会スタッフとも交流した。



大成建設の技術で実現する未来都市

わたしたちは「人がいきいきとする環境を創造する」というグループ理念のもと、自然との調和の中で、安全・安心で魅力ある空間と豊かな価値を生み出してきました。
For a Lively World...この思いとともに、これまで育んできた技術を、さらに高め次の世代へ。
わたしたちは、夢と希望に溢れた地球社会づくりに取り組んでいきます。

地球がいきいき、人もいきいき。大成建設がめざす未来です。

地図に残る仕事。®



大成建設株式会社